第９回

やぶ医者大賞

令和４年９月10日（土）

午後０時45分 開会

養父市立ビバホール

主催　養父市

後 援　日本医師会、全国国民健康保険診療施設協議会、全国自治体病院協議会
関西健康・医療創生会議、認定NPO法人日本ホルモンステーション
健康加齢医学振興財団、兵庫県医師会、兵庫県市町診療施設運営対策協議会
兵庫県、養父市医師会、公立八鹿病院

次　第

開会セレモニー

・プロローグ

・主催者あいさつ

【第１部】

表彰式

受賞者発表

つぎた　のぶゆき
次田　展之 氏（広島県　医療法人社団心海会百島診療所　理事長・院長）

演題「百島・佐木島　離島診療所の挑戦
～へき地医療継続のために～　」

けんざか　つねあき
見坂　恒明 氏（兵庫県　兵庫県立丹波医療センター　地域医療教育センター長）

演題「住民とともに行う地域医療とその教育」

アトラクション

芸術文化観光専門職大学学生　創作ダンスサークル

創作ダンス「conformity experiments」

【第２部】

記念講演

こんどう　なおき
近藤　尚己 氏

（京都大学大学院医学研究科　社会健康医学系専攻　社会疫学分野主任教授）

演題「社会的処方「つながり」の力で進める、
誰もが健康になるまちづくり」

閉会セレモニー

第９回 やぶ医者大賞の概要

■ 趣旨・目的

養父市では、藪医者の語源が「養父にいた名医」であること、また地元（養父市八鹿町宿南）で私塾「青谿書院」を開き、知識と実行力を兼ね備えた人材を育成した江戸時代の儒学者である池田草庵（養父市出身）にちなみ、若手医師の育成、医療過疎地域の医師確保及び地域医療の発展に寄与することを目的とした「やぶ医者大賞」を開催し、この顕彰により、若手医師を育てるとともに、過疎地での医療に携わることの魅力を発信し、医療過疎地における医師の確保と地域医療の発展に寄与することを目指している。

■ 対象者（応募資格）

医療過疎地域の病院又は診療所（民間含む）に５年以上勤務する、令和４年４月１日時点で50歳以下（昭和46年４月２日以降生まれ）の地域医療に貢献している医師及び歯科医師

■ 募集の状況

期　間：令和４年３月10日～５月27日
応募者：７名（北海道２名、福井県、岐阜県、兵庫県、岡山県、広島県）

■ 審査会

審 査 日：令和４年６月25日（土）　　審査場所：養父公民館
審 査 員：９名　※詳細は審査員欄を参照ください　　受 賞 者：２名を「やぶ医者」に決定

■ 過去の受賞者

（敬称略）

	氏　名	性別	所　属
第１回	東條環樹（とうじょうたまき）	男	広島県　北広島町雄鹿原診療所
	前川恭子（まえかわきょうこ）	女	山口県　萩市国民健康保険むつみ診療所
第２回	白石裕子（しらいしゆうこ）	女	島根県　西ノ島町国民健康保険浦郷診療所 隠岐広域連合立隠岐島前病院 知夫村診療所　（※3箇所を兼職）
	十枝めぐみ（とえだ）	女	香川県　綾川町国民健康保険綾上診療所
第３回	花戸貴司（はなとたかし）	男	滋賀県　東近江市永源寺診療所
	藤原真治（ふじわらしんじ）	男	徳島県　美馬市国民健康保険木屋平診療所
第４回	臼井恒仁（うすいつねひと）	男	滋賀県　米原市　地域包括ケアセンターいぶき
	澤田弘一（さわだこういち）	男	岡山県　鏡野町国民健康保険上齋原歯科診療所
第５回	市川万邦（いちかわまほ）	男	山梨県　南部町国民健康保険診療所
	廣瀬英生（ひろせひでお）	男	岐阜県　県北西部地域医療センター国保和良診療所
第６回	片岡恵一郎（かたおかけいいちろう）	男	熊本県　小国町外一ヶ町公立病院組合小国公立病院
	小泉圭吾（こいずみけいご）	男	三重県　鳥羽市立神島診療所
第７回	中井和男（なかいかずお）	男	長野県　小谷村国民健康保険小谷村診療所
	松本毅（まつもとつよし）	男	愛媛県　医療法人松本クリニック
第８回	松井善典（まついよしのり）	男	滋賀県　医療法人北海道家庭医療学センター浅井東診療所
	八木田一雄（やぎたかずお）	男	北海道　松前町立松前病院

受賞者紹介

つぎた　のぶゆき
次田　展之
（49歳）

平成９年３月　日本大学医学部卒業
平成９年４月　日本大学医学部附属板橋病院　麻酔科
平成15年１月　帝京大学医学部附属市原病院
（現：帝京大学ちば総合医療センター）
ER　非常勤助手
平成15年６月　湘南第一病院　総合診療科医長
平成18年７月　医療法人社団共進会　さがみホームクリニック（在宅支援診療所）
平成23年４月　百島診療所
平成30年４月　医療法人社団心海会　設立

次田氏は、人口約400人、高齢化率66.9％の瀬戸内海中部に浮かぶ離島、尾道市百島町（ももしまちょう）で活動されています。

平成23年、医師の不在が続いていた島に百島診療所を開設され、島でただ一人の医師として勤務されています。

診療所開設の年から、自ら小型船舶を操縦し、近隣の離島への訪問診療も始められました。

また、人口約700人の三原市佐木島（みはらしさぎしま）では廃止となった民間診療所に継続を申し入れ、平成30年に佐木島診療所を開設されました。両島は約15キロ離れていることから、小型船舶に加えヘリコプターも導入。小型船舶では片道１時間かかる移動時間を、わずか８分に短縮し、午前中は佐木島、午後は百島と、最低でも週４日、両島を行き来して外来診療や訪問診療、往診を行っておられます。

高齢者の多い両島の島民の健康を支えるため、オンラインを活用し、島在住のコミュニティナースとの協働で24時間365日の診療体制を構築されながら、経歴やキャリアを活かし独自の機動力を駆使した新たな離島医療のモデルを実践されていることが評価されました。

受賞者紹介

けんざか　つねあき
見坂　恒明
（47歳）

平成12年３月	自治医科大学医学部卒業
平成13年５月	兵庫県立淡路病院 研修医
平成15年５月	公立和田山病院 内科勤務
平成17年５月	公立村岡病院 内科勤務
平成18年５月	公立豊岡病院 総合診療科勤務 兼　神戸大学大学院医学研究科 プライマリ・ケア医学勤務
平成22年10月	自治医科大学地域医療学センター総合診療部門勤務
平成27年４月	兵庫県立柏原病院（現：兵庫県立丹波医療センター）地域医療教育センター 兼　神戸大学大学院医学研究科地域医療支援学部門勤務

見坂氏は、平成27年から現在の兵庫県立丹波医療センターに勤務されています。

医学生の夏季セミナーでは、学生が住民宅にホームステイをしながら、地元住民と濃密に交流できる地域医療実習を実施したり、都市部と地方の臨床研修病院と大学病院間をテレビ会議システムで結び、定期的に症例検討会議を実施したりと、医学生や若手医師の学習意欲と診療能力を向上させる教育・指導に尽力されています。

また、自らも病院や診療所で診察を行いながら、今後の高齢化社会を見据えて訪問診療や在宅看取りを広報活動とあわせて積極的に推進されるとともに、新専門医制度では、へき地を含む、県内の医療機関を広く関連病院とした総合診療領域「兵庫県地域医療総合診療専門医プログラム」を責任者として立ち上げられました。

地元住民や行政と連携し、将来の地域医療の担い手となる若手医師の教育・人材育成に尽力され、全県的なネットワークを構築されるなど、地域医療の課題解決に貢献されていることが評価されました。

記念講演　講師紹介

社会的処方「つながり」の力で進める、誰もが健康になるまちづくり

京都大学大学院医学研究科　社会健康医学系専攻
社会疫学分野主任教授　近藤（こんどう）　尚己（なおき）氏

2000年山梨医科大学医学部医学科卒業。卒後医師臨床研修後、山梨医科大学助教・同講師・ハーバード大学フェロー、東京大学准教授などを経て現職。健康の社会的決定要因と健康格差に関する疫学研究を進めている。東京大学未来ビジョン研究センター特任教授・（一社）日本老年学的評価研究機構理事・（公財）医療科学研究所理事・内閣官房「孤独孤立対策の重点計画に関する有識者会議」委員、自由民主党「明るい社会保障改革推進議員連盟」学術アドバイザー。日本疫学会代議員・日本プライマリケア連合学会健康の社会的決定要因検討委員会副委員長・日本医療経済学会学術推進委員・世界保健機関Clinical Consortium on Healthy Ageing専門家メンバー／Global Network on Long-term care コアメンバー。Journal of Epidemiology Deputy Editor-in-Chief。趣味は野遊び・野菜づくり。

近著

「健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点」医学書院（単著）
「社会疫学＜上・下＞」大修館（監訳）
「認知症plus地域共生社会」日本看護協会出版会（共同編著）
「社会と健康：健康格差解消のための統合科学的アプローチ」東大出版会（共同編著）
Global Perspectives on Social Capital and Health
（邦訳：ソーシャル・キャピタルと健康政策：地域で活用するために）
Health in Japan：Social Epidemiology of Japan Since the 1964 Tokyo Olympics(Oxford),
the Atlas of Health Inequality in Japan(Springer) など。

ウェブサイト

「京都大学大学院医学研究科　社会疫学分野」　https://socepi.med.kyoto-u.ac.jp/

審　査　員

※審査委員長以下、五十音順

（審査委員長）

● **枚田　一広**（養父市医師会会長）
兵庫県出身　横浜市立大学医学部卒　脳神経外科枚田クリニック院長
日本脳神経外科学会専門医　医学博士
受賞歴：地域救急医療体制への功労（兵庫県知事表彰）

（審査委員）

● **岡山　雅信**（神戸大学大学院地域医療教育学部門特命教授）
兵庫県出身　自治医科大学卒
受賞歴：Most Successful Fellow of 1998 Cohort, Master of Medical Science
著　書：『家庭でできる応急処置』『薬の処方、徹底トレーニング』

● **小谷裕都子**（公立八鹿病院組合南但訪問看護センター所長）

● **後藤　葉一**（公立八鹿病院院長）
兵庫県出身、京都大学医学部卒
日本医療研究開発機構 (AMED) 評価委員、日本臨床運動療法学会理事長、日本心臓リハビリテーション学会前理事長、日本内科学会総合内科専門医、循環器専門医、日本心臓病学会功労会員
受賞歴：日本心臓リハビリテーション学会木村登賞

● **永井　良三**（自治医科大学学長）
東京大学名誉教授　元東京大学医学部付属病院院長
受賞歴：ベルツ賞、持田記念医学薬学新興財団学術賞、日本動脈硬化学会学会賞、紫綬褒章、
日本心血管内分泌代謝学会高峰譲吉賞、European Society of Cardiology Gold Medal

● **中尾　一和**（京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター特任教授）
兵庫県養父市出身　養父市名誉市民　京都大学名誉教授
受賞歴：紫綬褒章、文部科学大臣表彰、日本医師会医学賞、武田医学賞、ベルツ賞、
日本内分泌学会学会賞、日本肥満学会学会賞、日本心血管内分泌代謝学会高峰譲吉賞

● **中野　　穣**（社会福祉法人関寿会はちぶせの里統括管理者）
社会福祉学修士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員
兵庫県介護支援専門員法定研修内容検討委員会副委員長
兵庫県介護支援専門員協会但馬支部副支部長
著　書：『はじめてのケアプラン』『思考プロセスがわかる！　自立支援型ケアプラン事例集』
『施設ケアマネジメント』　他

● **西村　正樹**（滋賀医科大学神経難病研究センター教授・図書館長）
兵庫県養父市出身　京都大学医学部卒
日本認知症学会専門医、指導医、理事、日本神経学会専門医、指導医
受賞歴：University of Toronto Department of Medicine Awards

● **平田　淳一**（兵庫医科大学救急・災害医学講座主任教授）
兵庫医科大学医学部卒　日本救急医学会指導医、JATEC コース終了
CLS インストラクター、ACLS インストラクター、DMAT コース終了、NBC テロ対策講習取得
受賞歴：ACS AHA best award、日本腹部救急医学会会長賞、日本呼吸療法医学会会長賞、
日本集中治療医学会会長賞、日本ショック学会会長賞

藪医者の語源は、養父の名医！

江戸時代の俳人で松尾芭蕉の門弟である森川許六という人が編纂した「風俗文選」という俳文集があり、この中に「藪醫者ノ解」と題する一節があります。

俳文集「風俗文選　藪医者ノ解」の一節より

藪醫者（やぶいしゃ）の解　　汶村（ぶんそん）

世に藪醫者と號するは。本名醫の稱にして。今いふ下手の上にはあらず。いづれの御ン時にか。何がしの良醫。但州養父といふ所に隠れて。治療をほどこし。死を起し生に回すものすくなからず。されば其風をしたひ。其業を習ふ輩。津々浦々にはびこり。やぶとだにいへば。病家も信をまし。藥力も飛がごとし。・・・・・

※出典：岩波文庫『風俗文選』（伊藤松宇校訂、昭和３年10月15日発行）
※この一節で藪医者に言及したのは許六ではなくその門弟で、許六と同じく近江彦根藩士の「汶村」という人物です。

この一節を意訳すると次のようになります。

世の中で「藪医者」という表現は、本来名医を現す言葉であって、今言われている下手な医者のことではない。いつごろの時代であろうか。ある名医が但馬の養父という所にひっそりと隠れるように住んでいて、土地の人に治療を行っていた。死にそうな病人を治すほどの治療を行うことも少なくなかった。その評判は広く各地に伝わり、多くの医者の卵が養父の名医の弟子となった。養父の名医の弟子と言えば、病人もその家人も大いに信頼し、薬の力も効果が大きかった。

なぜ名医の代名詞としての「養父医者」は、ヘタを意味する「藪医者」となってしまったのでしょうか。

「養父の名医の弟子と言えば、病人もその家人も大いに信頼し、薬の力も効果が大きかった。」と「風俗文選」にもあるように、「養父医者」は名医のブランドでした。

しかしこのブランドを悪用する者が現れました。大した腕もないのに、「自分は養父医者の弟子だ」と口先だけの医者が続出し、「養父医者」の名声は地に落ち、いつしか「藪」の字があてられ、ヘタな医者を意味するようになったのではないでしょうか。

「藪医者」の語源については、様々な説がありますが、文献に基づいた「藪医者とは、もともと名医を現す言葉であり、その語源は養父の名医である」という説が本当ではないでしょうか。